

- |  |
|--|
| 1. 特に効果的であり改善に資した事例<br>C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策<br>③教育効果・成果についての検証と教育プログラムを改善するシステムの構築 |
|--|

### ③教育効果・成果についての検証と教育プログラムを改善するシステムの構築

#### 《人社系》

##### ●茨城大学教育学研究科

###### 「地域教育資源開発による高度教育専門職養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・前期、後期での学習を踏まえて、模擬授業を行い、成果を発表すると同時に授業研究を行い、批判的検討を加えた。また、ポスターセッションを開催し、相互検証の機会とした。これらを踏まえて、院生を中心とした授業検討会をもち、院生の意見を取り入れつつ、教育プログラムを改善していくシステムを実行している。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・担当教員の意見や考えを明確に提示すること、院生の意見や考えを取り入れることのバランスの取り方について、担当教員間でじっくり議論することを重視した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・教育プログラムを改善するシステムの基礎は構築できている。従って、大学院全体の教育プログラムの見直しについても、今後の重要な観点を提供している。

#### 《理工農系》

##### ●静岡大学情報学研究科情報学専攻

###### 「マニフェストに基づく実践的IT人材の育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

本 GP 事業の各年度ごとの教育効果・成果を速やかに外部からの視点で検証し、翌年度の事業実施に生かすためのアドバイザリー会議制度を構築した。アドバイザリー委員には、静岡大学情報学部客員教授陣を活用し、企業・社会に活躍する有識者、約 20 名を集めた。毎年の大学院 GP フォーラムにて、新入生合宿研修、学生主体活動、国内外インターンシップの評価を、毎年の修士研究発表会にて、修士研究のレベル、修士教育・研究の方向性を評価した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

毎年度の 2 月下旬に開催される修士研究最終発表会に 2 日間にわたって、アドバイザリー委員に参加してもらい、じかに学生と委員との間の質疑応答を行い、終了後、「修士研究のレベル」「修士教育・研究の方向性」に関するアドバイザリー委員と研究科教員との意見交換を行った。それを踏まえて毎年度「評価」をまとめ、研究科委員会で紹介するとともに、翌年度の GP 事業の進め方、学生の指導の指針とした。また、博士課程学生に対しては、個別にアドバイザリー委員からアドバイスをもらった。

1. 特に効果的であり改善に資した事例

C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

③教育効果・成果についての検証と教育プログラムを改善するシステムの構築

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

本 GP 事業についての外部の目からの評価で、翌年度の事業の進め方の参考になったことはもちろんである。それ以上に、修士研究最終発表会に、日本で有数の研究者であるアドバイザー委員に加わってもらったため、学生（時には指導教員も）と委員との間で、研究方法、成果について真剣勝負のような討議を行うことができ、その年度の修士研究だけではなく、翌年度以降の修士研究のレベルを高めることができた。